

躍動

学生たちの活躍

「躍動—学生たちの活躍—」では、学生のサークル活動にスポットライトを当て、その活動を紹介していきます。今回は、個性あふれるマジシャン達が集う「九州大学マジックサークル」を紹介します。



九大祭ではすっかりおなじみとなったマジックサークルによる「マジック喫茶」。若きマジシャンたちの華麗な手さばきを間近で見られるこの空間は、毎年子供から大人まで多くのお客さんが訪れ、九大祭でも1、2を争う人気スポットとなっています。今回の躍動では九大生マジシャンが多くのお客さんを魅了する秘密を探るべく、練習中の代表の三嶋佳樹さん（薬学部3年）、副代表の二川裕紀さん（工学部2年）にお話を伺いました。

—まずはマジックサークルの活動内容について教えてください。

二川さん 主な活動は、九大祭や伊都祭でのマジック披露です。また、老人ホームや幼稚園でボランティアのマジックショーを行うほか、毎年1回ホールを借りて、大きなショーも開催しています。

三嶋さん まず、「見ず知らずの皆さんに、マジックを堂々と披露できるようにすること」を目標に、九大祭の「マジック喫茶」に向けて、伊都キャンパスの教室や部室で練習を重ねています。

—数あるサークルの中からなぜマジックサークルを選んだのですか？

二川さん 僕は大学に入る前からマジック



左：副代表の二川さん、右：代表の三嶋さん

クに興味がありました。だから、入部したのは自然な流れだと思います。

三嶋さん 僕はそれまでマジックの経験は全く無く、単に「面白そうだな。」

「マジックできたら楽しそうだな。」と思って入部しました。実は僕みたいな初心者で入部する人がほとんどです。

二川さん サークルに入る前は、単にマジックのタネの仕組みを純粋に楽しんでいました。もちろんそれもマジックの魅力の一つですが、サークルで、マジックを披露するようになってからは、お客さんとのコミュニケーションも、マジックの楽しみだと思えるようになりました。

—そこまで考えて披露しているんですね。となると、やはりお客さんが喜んでくれるときは嬉しいでしょう？

三嶋さん そうですね。お客さんから驚いたり、喜んだ表情を引き出せたときの気分は最高で、マジックをやったよかったです！と思います。ただ、デビューしたての頃は緊張しすぎて、お客さんの反応を見る余裕がありませんでした。オロオロしているうちに子供たちに道具を触られるし、タネはバレるし、と悲惨なステージも多々ありました。今だから笑えるんですけど(笑)

—それは色んな意味でいい思い出ですね。見たかった(笑)

今回の号はオープンキャンパスに来てくれた高校生にたくさん配られます。最後にそんな未来の後輩へのメッセージをいただけますか。

二川さん そうですね、マジックの話ばかりだと大学でマジックしかやっていないのかと思われる(笑)ので、大学全般の話となると、そうですね…。大学ではレベルの高い内容を深く勉強できますし、自由な時間も沢山あり、自分で道を切り開いていくことが必要となります。そんな中で自分を良くするのも、ダメにするのも自分次第です。まずは、今、自分が何をやりたいのか、何に興味があるのかをよく考えて、本当に行きたい学部・学科を選んで頑張ってくださいね。



2011年3月ステージ発表会後

—全くの初心者で入部しても、人前で披露できるようになるんですか？

三嶋さん もちろんです。先輩が代々引き継がれた技をしつかり教えてくれるので、大丈夫ですよ。

—皆さんを見てみると、初対面のお客さんを相手にしているように話していますね。実はこれも練習だったりするんですか？

三嶋さん そうなんです。実はマジックでは、お客さんとのコミュニケーションが非常に重要なんです。会場の



いですよ!!

また、サークルに入るのは、友達を増やすいい機会です。是非是非マジックサークルを!!初心者・男女問わず大歓迎です。お待ちしております!!

—インタビュー終了後、急遽開催してもらったマジックショー。絶対にタネを見破ってやろうと思っていたインタビューでしたが、あざ笑うかのようにテンポよく技が繰り広げられていきます。そして一番驚いたのは、トランプをシャッフルし始めたと同時に切り替わる彼らの目配りや言葉掛け。本格派エンターテイナーの姿がそこにはありました。

11月の九大祭では彼らの技を間近で楽しめます。このチャンスに伊都キャンパスへ足を運ばれてはいかがでしょうか？



2010年11月九大祭

九州大学 マジックサークル

マジックサークル Webサイト
http://www.geocities.jp/kyudai_magic/